



極東開発工業株式会社

証券コード：7226



第80期 期末決算のご報告

2014年4月1日～2015年3月31日



トップメッセージ

株主の皆様におかれましては、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2014年4月1日から2015年3月31日までの当社第80期営業の概況についてご報告申し上げます。

■ 2015年3月期の概況

当連結会計年度における我が国経済は、政府の経済対策や金融政策を背景として、企業収益や雇用情勢の改善および公共投資の持ち直しが見られたほか、個人消費についても緩やかな回復の兆しが見られた一方で、消費増税や円安の進行、原油価格の急激な変動の影響があり、一部に先行き不透明感を抱えながら推移しました。

このような状況下、当社グループは中期経営計画 **[Next Step 2015]** ～さらなる飛躍に向けて～（2013年4月1日～2016年3月31日）の2年目として、国内・海外ともに売上および利益の拡大と、更なる企業価値向上に繋げるべく積極的に諸施策を実行いたしました。

この結果、当連結会計年度の業績は前連結会計年度と比較して、主力である特装車事業が増加したこと等の要因により、売上高は8,419百万円（9.3%）増加して99,331百万円となりました。損益面では営業利益は1,380百万円（17.2%）増加して9,418百万円、経常利益は1,212百万円（14.9%）増加して9,326百万円、当期純利益は環境事業におけるガス化溶融炉事業の撤退に伴う特別損失を計上したものの687百万円（18.9%）増加して4,332百万円となりました。

■ 今後の見通し

我が国経済は、企業収益の改善による設備投資の増加や、所得の向上などに伴う消費の改善により緩やかな回復基調が続く一

方で、原油価格の変動や海外の金融動向といった不安定要因も見られ、先行きはやや不透明なまま推移するものと見られます。

当社グループは、中期経営計画【Next Step 2015】～さらなる飛躍に向けて～の最終年度として、諸施策の更なる推進により、売上および利益の拡大と企業価値のより一層の向上を図ってまいります。

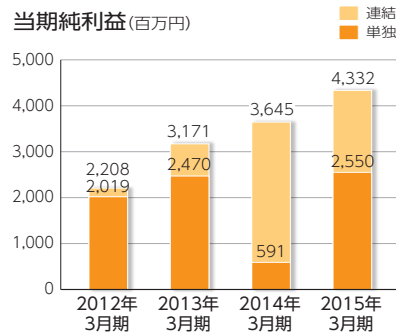
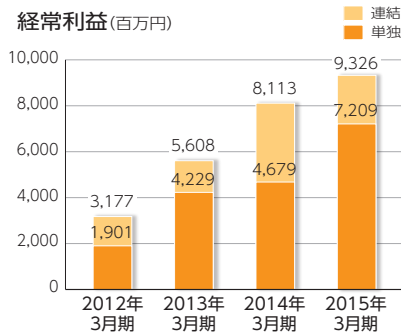
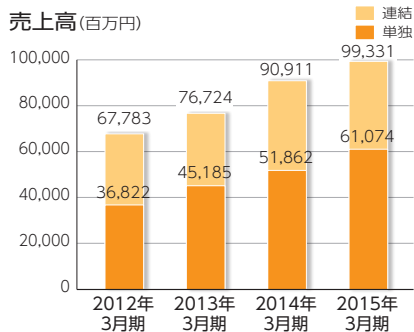
なお当社は、2015年6月1日に創立60周年を迎えました。

これもひとえに全てのステークホルダーの皆様のご支援、ご高配の賜物であり、心より厚く御礼申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2015年6月 取締役社長

■ 業績ハイライト



TOPICS 01

極東開発工業株式会社は創立60周年を迎えました

当社は1955年6月1日の創業以来、「技術と信用を重んじ一致協力して企業の生々発展に努力し広く社会に奉仕する」という経営理念のもと、特装車事業・環境事業・不動産賃貸等事業の3つの事業を通じてさまざまな製品・サービスを提供することにより、社会インフラの整備に貢献してまいりました。

今後も刻々と変化する市場のニーズに的確に対応するため、国内外での事業展開の軸となる「モノづくりの企業としての総合力」の強化を図るとともに、将来に亘って継続して成長すべく、引き続きグループ一丸となって諸施策に取り組んでまいります。



ダンプトラック (1955年)



テールゲートリフタ「パワーゲート®」(1964年)

【沿革】

- 1955年 極東開発機械工業株式会社として設立
(資本金：250万円 本店所在地：神奈川県横浜市鶴見区)
- 1957年 本社および工場を西宮市上甲子園に移転
- 1959年 名古屋工場操業
- 1962年 横浜工場操業
- 1970年 福岡サービスセンター（現 福岡工場）操業
- 1971年 社名を極東開発工業株式会社に改称
- 1979年 三木工場操業
- 1989年 大阪証券取引所第2部上場
- 1992年 東京証券取引所第2部上場
- 1995年 東京・大阪両証券取引所第1部指定替上場
- 2005年 中国・昆山工場操業
- 2007年 日本トレクス株式会社をグループ化
- 2012年 インド工場操業
- 2014年 インドネシア工場操業
タイに合弁会社（Trex Thairung Co., Ltd.）を設立

■ TOPICS 02

バイオガスプラント事業へ参入 ～コーンズ・アンド・カンパニー・リミテッドと技術提携～

コーンズ・アンド・カンパニー・リミテッド（本社：香港／日本に於ける本社：東京都港区（以下、コーンズ社））とバイオガスプラントに関する技術提携を行い、当社環境事業においてバイオガスプラントの分野へ参入いたしました。

バイオガスプラントとは、食品残渣や家畜ふん尿、稲わらなど動植物由来の再生可能な有機性資源（バイオマス資源）をメタン発酵させることにより、ボイラーや発電機の燃料として利用可能なバイオガスエネルギーへ転換させる施設で、処理費用のかかるバイオマス資源からクリーンエネルギーを産み出すシステムとして、今後の発展性が期待されています。

当社は今後、コーンズ社との技術提携によりバイオガスプラントの拡販に注力いたします。



バイオガスプラント（高千穂）

■ TOPICS 03

大和市消防本部殿にミニ消防車を寄贈

当社横浜工場（神奈川県大和市）を通じて、大和市消防本部殿にミニ消防車を寄贈いたしました。

今回寄贈したミニ消防車「まもるぞう」は2代目となり、1991年に同じく当社より寄贈を行った初代「まもるぞう」が老朽化したことに伴って新たに製造を行ったもので、バッテリーを動力源として本物の消防車同様に、赤色灯やサイレン、拡声器、消火器、放水ポンプなどを装備しています。

今後、2代目「まもるぞう」は初代と同じく、防災イベントでの展示や乗車体験等を通じて、市民の皆様に防災に対する啓蒙活動を行う予定です。



受納式の様子

写真左：大和市副市長 伊部 啓之 様

写真右：当社執行役員 特装事業部

生産本部 横浜工場長 細澤 幸広

■ TOPICS 04

インドネシアで立体駐車装置のデモ機を設置

インドネシアにおいて立体駐車装置のデモ機を設置しました。

当デモ機は、当社のインドネシア工場における合併パートナーであるインドモービル社のグループ会社の、ジャカルタ市内にある乗用車販売会社敷地内に設置したもので、立体駐車装置の市場調査を目的としています。

インドネシアでは現在立体駐車装置は広く普及していませんが、今後の人口増加や経済発展に伴い需要の発生が見込まれます。

当社グループでは、デモ機を活用することで今後の需要および市場の動向を精査し、インドネシアにおける立体駐車装置の可能性を見極めてまいります。



インドネシアに設置した立体駐車装置デモ機

■ 新製品ニュース 01

高圧大容量ポンプユニット搭載のコンクリートポンプ配管車!

新型コンクリートポンプ車「ピストンクリート® PT110-10」を発売

高圧大容量ポンプユニットを搭載したピストン式コンクリートポンプ配管車「ピストンクリート PT110-10」を発売いたしました。

新型車は、2014年2月に発売した「ピストンクリート PY135-28-H」で実績のある、16.0MPa（従来機（PT85-10）比35%アップ、高圧圧送時）の最大吐出圧と、112m³/h（従来機比30%アップ、大容量圧送時）の最大吐出量を誇り、緻密な電子制御による大幅な低騒音化（従来機比）を実現した高圧大容量ユニットを搭載した配管車で、シャシにホイールベース約5,550mmのGVW22トン車を採用することにより、あらゆる現場に対応できる機動性を確保しています。

コンクリートポンプ配管車に求められる「高圧打設」「大容量打設」「長距離打設」のそれぞれのニーズに対応できる能力を備えた新型コンクリートポンプ車です。



(※) 配管車：折りたたみ式のブームを搭載したブーム車に対して、ブームを搭載せず、車両のポンプユニットから直接配管を繋いで打設現場までコンクリートを圧送するコンクリートポンプ車で、ブーム非搭載のため車両の全高が低くなることなどから、高さ制限のある場所や配管が一定程度固定される大型建設物などで使用されています。

■ 新製品ニュース 02

水害から大切な資産を守る防水板の対応バリエーションが拡大!

アルミ跳ね上げ式簡易防水板「ザ・ガードバン[®]」に新仕様を追加設定

アルミ跳ね上げ式簡易防水板「ザ・ガードバン」に、片扉にも設置が可能なパネル幅が800mm～1,100mmの仕様（片扉仕様）を新たに特別仕様として追加設定いたしました。

「ザ・ガードバン」は、当社が永年に渡って培ってきたテールゲートリフタ（商品名：パワーゲート[®]。）のアルミブロックや製造ノウハウを生かして2011年9月より発売している防水板で、近年地域を問わず急増している台風やゲリラ豪雨などによる水害から大切な資産を守ります。

また、新築・既存の建物を問わず設置が可能かつ、起立操作は約20秒（当社試験値）であり、一刻を争う急な増水時に威力を発揮します。

現在、標準仕様としてパネル幅が1,800mm～2,300mmの仕様（両扉仕様）を設定していますが、今回、パネル幅が800mm～1,100mmの片扉仕様への対応が可能となり、さらに様々な場所へのフレキシブルな設置が可能となりました。

なお、当製品の販売はグループ会社である極東開発パーキング株式会社が担当しています。

— 片扉仕様 —



医療法人 回生会 宝塚病院様
通用口設置例
パネル幅 900mm

— 両扉仕様 —



医療法人 回生会 宝塚病院様
正面玄関設置例
パネル幅 1,800mm

■ 新製品ニュース 03

建築基礎の地盤改良工事に最適!

定置式コンクリートポンプ 「スクイーズグリート® PQ30-22MT」を発売

建築基礎の地盤改良工事に最適な定置式コンクリートポンプ「スクイーズグリートPQ30-22MT」を発売いたしました。

地盤改良工事は、セメント系硬化剤などの薬液を地盤に注入し建築基礎地盤の強度を確保するのが一般的な工法で、2011年に発生した東日本大震災の際、特に液状化に対しては地盤改良された部分の耐性がほぼ100%であったことなどから、昨今施工例が増え注目が高まっています。



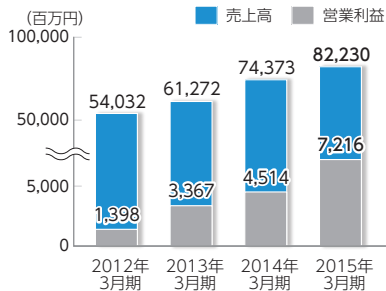
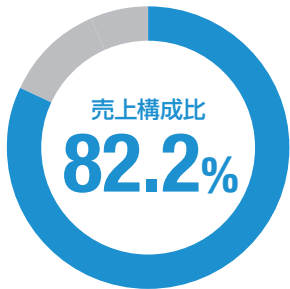
地盤改良工事現場イメージ

新製品は、地盤改良工事における薬液の注入に最適な吐出量 (30m³/h) および吐出圧 (2MPa) とし、薬液管理の確実化と容易性を実現したほか、ポンピングチューブ (圧送用チューブ) に、薬液圧送時の脈動を抑えるテーパチューブを採用するなど、地盤改良工事に適した仕様となっています。



■ セグメント別概況

【特装車事業】



1台積車輛運搬車「フラトッ[®].Zero II」



テールゲートリフタ
「パワーゲート[®].V600プレスゲート」

国内は特装車の需要が引き続き高い水準で推移する中、受注の確保に注力するとともに、各工場においては生産の更なる効率化および合理化のための設備導入等を行うことで納期短縮および売上・利益の拡大に努めました。その他、ハイブリッドバッテリーの電気で塵芥収集装置を駆動させる世界初のシステムを搭載した電動式塵芥収集車「eパッカー[®].ハイブリッド」を5月に、お客様からのブランド認知も高い製品である「フラトッ[®].Zero」の新型で斬新なデザインを採用した「フラトッ[®].Zero II」を11月に発売するなど、新製品の開発および拡販も積極的に行いました。

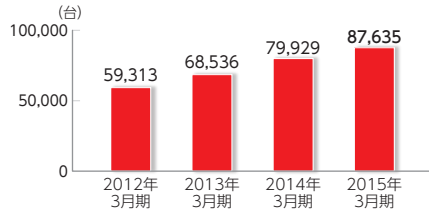
海外につきましては、タイ王国における当社と当社連結子会社の日本トレクス株式会社および現地企業2社の合併による、バンボデーおよびダンプトラック等の生産・販売拠点となる新会社（Trex Thairung Co., Ltd.：プルワックデー郡）において工場の建設を進めました。なお工場につきましては2015年5月に完成し、今後は2016年3月期の稼動に向けた準備を行ってまいります。

これらの結果、売上高は7,856百万円（10.6%）増加して82,230百万円となりました。営業利益は、売上高の増加のほか前連結会計年度に計上した貸倒引当金の影響がないことなどにより、2,702百万円（59.9%）増加して7,216百万円となりました。



大型ダンプトラック（GVW20t）

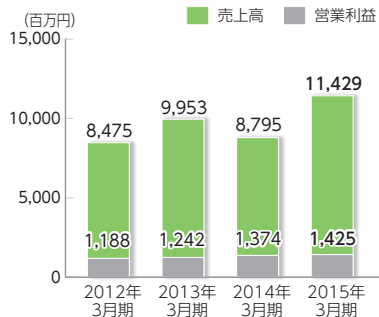
■ 国内普通トラック登録台数の推移



粉粒体運搬車「ジェットパック®」

■ セグメント別概況

[環境事業]



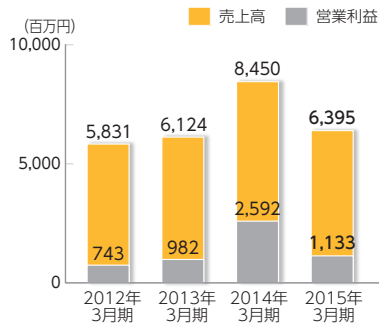
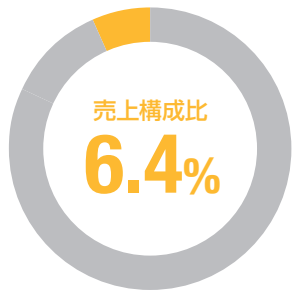
リサイクルセンター (さいたま市)

プラント建設につきましては受注活動を展開した結果、新規物件として北海道士別市様よりリサイクルセンターの建設工事を5月に、大阪府泉大津市・和泉市・高石市の3市からなる一部事務組合である泉北環境整備施設組合様より資源化センターの建設工事を10月にそれぞれ受注したほか、受注済物件の建設工事も進め4物件の納入を行いました。また、メンテナ

ンスおよび運転受託にも引き続き注力しました。

これらの結果、売上高は、工事進行基準売上高の増加などにより2,634百万円 (30.0%) 増加して11,429百万円となりました。営業利益は50百万円 (3.7%) 増加して1,425百万円となりました。

【不動産賃貸等事業】



コインパーキング
(P.ZONE®)



立体駐車装置
(レントウパズル® HS-22)

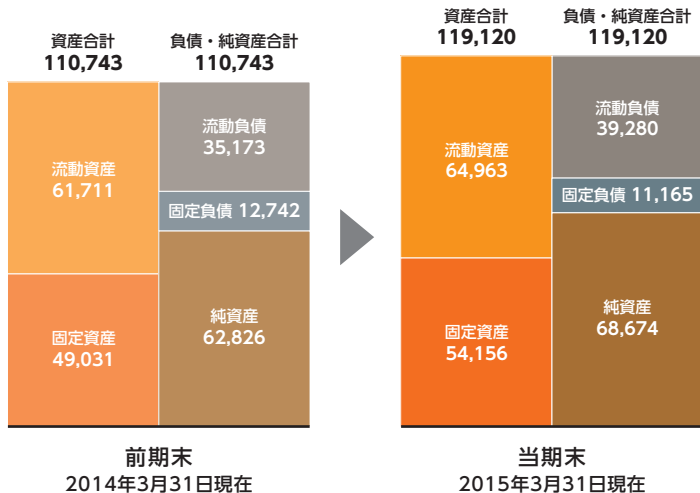
立体駐車装置は引き続き市場環境は厳しい状況で推移したものの、メンテナンスおよびリニューアル事業において積極的な受注活動を行いました。また、コインパーキングにおいては継続して事業地選別を行い稼働率の向上を図ったほかコストダウンも推進しました。さらに太陽光発電について、既に稼働を行っている2拠点（福岡県飯塚市および青森県八戸市）に加え

て、愛知県豊川市においても拠点を稼働させました。

業績面では、前連結会計年度は販売用不動産の売却収入があったことにより、売上高は2,055百万円（24.3%）減少して6,395百万円となりました。営業利益は1,458百万円（56.3%）減少して1,133百万円となりました。

■ 連結財務データ (日本基準)

連結貸借対照表の概要 (単位: 百万円)



|| ポイント解説 ||

総資産は前期末と比較して8,376百万円 (7.6%) 増加して119,120百万円となりました。

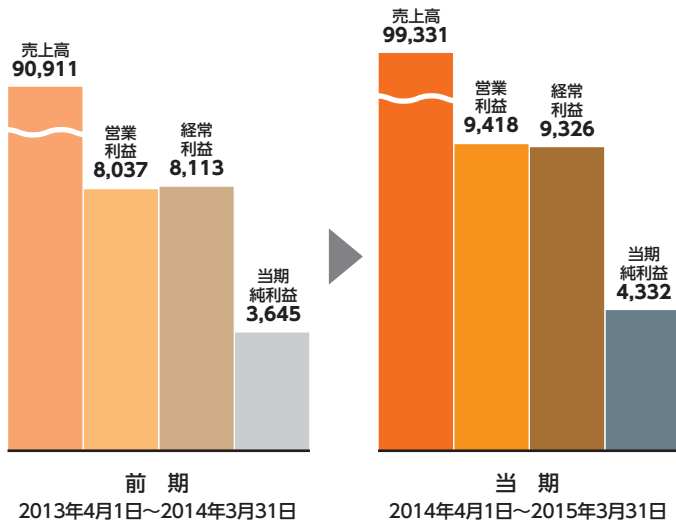
流動資産につきましては、受取手形及び売掛金が増加したことなどにより3,251百万円 (5.3%) 増加して64,963百万円となりました。固定資産につきましては、投資有価証券の時価の上昇などにより5,125百万円 (10.5%) 増加して54,156百万円となりました。

負債につきましては、流動負債が支払手形及び買掛金が増加したことなどにより4,106百万円 (11.7%) 増加して39,280百万円となり、固定負債が長期借入金の返済などにより1,577百万円 (12.4%) 減少して11,165百万円となりました。

また、純資産につきましては、当期純利益を計上したことなどにより5,848百万円 (9.3%) 増加して68,674百万円となりました。

なお、当期末現在の自己資本比率は57.6% (前期末56.7%) となりました。

連結損益計算書の概要 (単位：百万円)



|| ポイント解説 ||

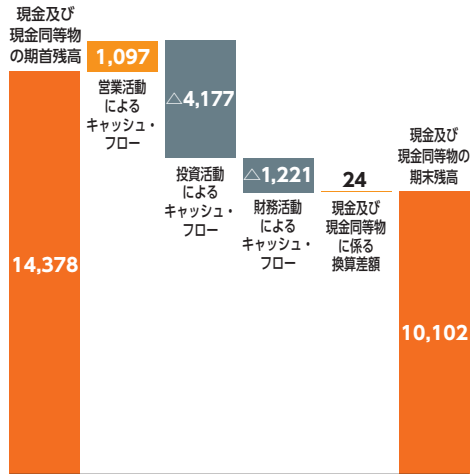
主力の特装車事業の需要が想定を上回る水準で推移する中、グループ一丸となって受注確保ならびに生産対応に努めた結果、売上高および利益につきましてそれぞれ増加いたしました。

これにより、中期経営計画【Next Step 2015】～さらなる飛躍に向けて～（2013年4月1日～2016年3月31日）の経営目標であった連結ベースで売上高95,000百万円、営業利益8,200百万円に、2年目である当期に到達いたしました。

今後とも、極東開発グループでは更なる業績の拡大に向けて引き続き諸施策に取り組んでまいります。

■ 連結財務データ (日本基準)

連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 百万円)



当期
2014年4月1日～2015年3月31日

|| ポイント解説 ||

当期末における現金及び現金同等物は、前期末に比べて4,276百万円 (29.7%) 減少して、10,102百万円となりました。その主な内訳は次のとおりです。

・営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金収支は、1,097百万円(前年同期比△8,289百万円)となりました。これは税金等調整前当期純利益の計上などによるものです。

・投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金収支は、△4,177百万円 (前年同期比△2,139百万円) となりました。これは固定資産の取得による支出などによるものです。

・財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金収支は、△1,221百万円 (前年同期比△1,697百万円) となりました。これは長期借入金の返済などによるものです。

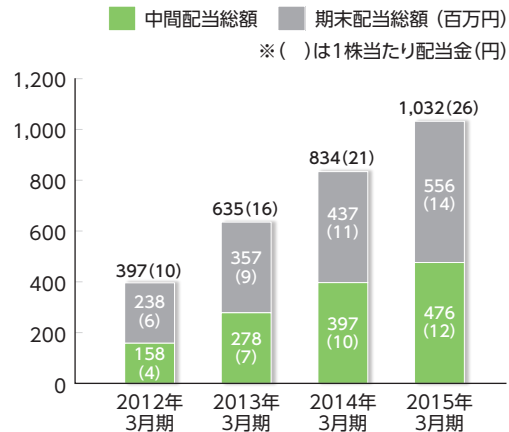
利益還元について

当社グループでは、株主還元を経営の最重要政策の一つと考え、業績の向上と財務体質の強化をはかりながら、将来の事業展開、経済情勢等を勘案して、株主の皆様のご期待にお応えできるよう努めております。

配当について

2015年3月期の期末配当金につきましては、前期末配当金より1株当たり3円増配の14円とさせていただきます。これにより、中間配当金を含めました年間配当金は、前年実績の21円と比較して1株当たり5円増配の26円となります。

配当総額の推移



■ 企業データ (2015年3月31日現在)

[会社概要]

商号	極東開発工業株式会社 KYOKUTO KAIHATSU KOGYO CO., LTD.
設立	1955年6月1日
資本金	11,899,867,400円
従業員数	連結2,424名 単独950名

[役員] (2015年6月25日現在)

代表取締役会長 最高経営責任者	筆谷高明
代表取締役社長 最高執行責任者	高橋和也
取締役 常務執行役員	杉本治己
取締役 常務執行役員	米田卓
取締役 常務執行役員	近藤治弘
取締役 常務執行役員	酒井郁也
取締役 常務執行役員	西川柳一郎

社外取締役	木戸洋二
社外取締役	道上明
常勤監査役	高島義典
監査役	植山友幾
社外監査役	楠守雄
社外監査役	乗鞍良彦
執行役員	則光健男
執行役員	堀本昇
執行役員	加藤定宣
執行役員	櫻井晃
執行役員	越智聡一郎
執行役員	布原達也
執行役員	栗山裕章
執行役員	細澤幸広

■ 株式データ (2015年3月31日現在)

[株式の状況]

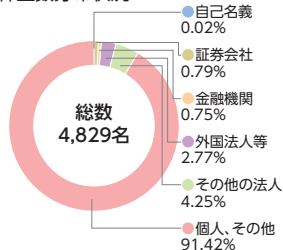
発行可能株式総数 170,950,672株
 発行済株式総数 42,737,668株
 株主数 4,829名
 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社三井住友銀行	1,600	4.02
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社みなと銀行退職給付信託口)	1,498	3.77
RBC ISB A/C DUB NON RESIDENT - TREATY RATE	1,370	3.44
極東開発共栄会	1,203	3.03
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,187	2.98
三菱UFJ信託銀行株式会社	1,012	2.54
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	909	2.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	905	2.27
宮原 幾男	841	2.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社トヨタ自動車口	837	2.10

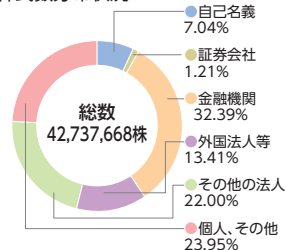
(注) 当社は自己株式を 3,008 千株 (7.04%) 保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

[株式分布状況]

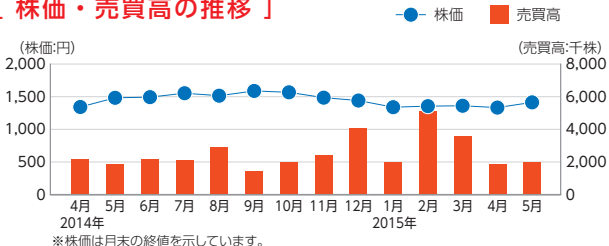
株主数分布状況



株式数分布状況



[株価・売買高の推移]



[株主メモ]

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	期末 3月31日 中間 9月30日
公告方法	電子公告 当社ホームページにて掲載 (http://www.kyokuto.com/)
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場取引所	東京証券取引所市場第一部

Kyokuto Kaihatsu Kogyo Co., Ltd.

<ご注意>

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

この冊子に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

〒663-8545 兵庫県西宮市甲子園口6丁目1番45号

極東開発工業株式会社 経営企画部

TEL:0798-66-1500

URL:<http://www.kyokuto.com/>

MAIL:kkkikaku@kyokuto.com

